第３回いきものにぎわい企業活動コンテスト　受賞活動紹介

別紙　2

表彰名	企業・事業者名	活動名称	紹介文	写真指定
環境大臣賞	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	みんなで守ろう！日本の希少生物種と自然環境 ＳＡＶＥ ＪＡＰＡＮ プロジェクト	「ＳＡＶＥ ＪＡＰＡＮ プロジェクト」は、市民・ＮＰＯ・企業等のステークホルダーが協働し、生物多様性保全に取り組むプロジェクトです。 お客さまが自動車保険の契約時にＷｅｂ約款等（公式ウェブサイト上で約款等を閲覧できる仕組み）を選択いただいた場合や、自動車事故の修理時にリサイクル部品等を活用いただいた場合に、日本ＮＰＯセンター、全国の環境ＮＰＯや地域の市民活動を支援するＮＰＯ支援センターと協働で、北海道ではタンチョウの誤飲を防ぐための湿原のゴミ拾い、山梨ではヤマネの巣箱作りを行う等、市民参加型の生物多様性保全活動を全国４７都道府県で行っています。 当社は、Ｗｅｂ約款等の推進と併せ、保険代理店とともに、お客さまへ本プロジェクトをご案内したり、イベント当日に趣旨説明を行ったりしています。 ２０１３年度末時点で３２５回の活動を実施し、１８，０００人を超える市民の皆さまに参加いただいています。	
農林水産大臣賞	市山環境保全会	わたしたちの“水”“土”“里”次の世代に残します	平成１９年の農地水環境保全向上対策事業を契機に、農業者だけでなく住民を上げての保全活動が可能になった。中でも、住民のアイディアを盛り込んで復興されたため池と棚田（通称：やぶさめのため池と棚田）は、地域のシンボルゾーンから桜江小学校の野外授業の場に進展し、授業で得た古代米は、桜江町内５公民館の各種イベントへの活用が定着した。 代々受け継がれてきた農地を子供達が活用し、地域と高齢者を“食”で元気にする。そんな取組みも地域で考え地域で解決できる“地域福祉”のひとつの姿と考える。 この活動を通じて、“ふゆみずたんぼ”への取組みを開始した農家も現れ、生物多様の環境で育ったお米は地元消費だけでなく、地元学校給食センターへ供給する試みに繋がった。普段なにげなく目にする動植物も市山の豊かな自然環境の証という再発見と“ふゆみずたんぼ”への取り組みは、地域へ新たな刺激を投げかけるとともに新たな可能性が広がると確信する。	
公益社団法人国土緑化推進機構理事長賞	日本郵政グループ	ＪＰ子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」	この取組は、2012年から、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワークとともに進めています。そのねらいは、①東日本大震災の被災地と全国の幼稚園・保育園児たちが、ドングリを育てる活動を通じて繋がり、互いに想い合い、「共に生きる心」を育むこと、②被災地で拾ったドングリを全国で育て、それらのドングリの苗木を被災地に植えることで、被災地の森の生物多様性の再生活動に貢献すること、③全国の参加園児の活動を、「グリーンウェイブ」活動として世界の子どもたちの環境活動に繋げることです。園児たちは、1年目に被災地でドングリを拾い、全国の参加園に送り、2年目に苗木に育て、3年目に被災地に戻して植えます。 2014年5月22日、岩手県山田町において、町長等のご参加を得て、地元3園の園児たち87名が参加し、第1回植樹会を実施しました。 2014年9月現在、この取組には全国58園の約3,000人の園児が参加しています。	
公益社団法人日本アロマ環境協会賞	石坂産業株式会社	やまゆり倶楽部友の会　「くぬぎの森再生プロジェクト」	石坂産業は、埼玉県三芳町に所在する建設廃棄物のリサイクル、資源化を行っている企業です。江戸時代、川越藩主・柳沢吉保によって開墾された三富新田の中に位置し、周囲には国木田独歩の描いたクヌギやコナラなどの落葉樹から形成される、美しい武蔵野の雑木林が広がっています。石坂産業では自然と共生する環境を未来に繋げる取り組みとして、地域住民や環境団体などと共に「やまゆり倶楽部友の会」を発足させました。現在では2800名を超える会員と共に継続的に落ち葉掃き、下草刈り体験等を行っています。整備された森は多様な動植物が生息する環境となり、日本生態系協会によるJHEP評価制度において、国内最高ランクの“AAA”(ﾄﾘﾌﾟﾙA)が認証されました。また、産業廃棄物のリサイクル施設でエコについて学び、三富新田の歴史と文化を五感で感じて頂く体験型の環境教室は、環境教育等促進法に基づく「体験の機会の場」に認定されています。	
公益財団法人水と緑の惑星保全機構会長賞	酪農学園大学 旭川市旭山動物園 一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパン 特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所 ESRIジャパン株式会社	マレーシアボルネオ島サバ州キナバタンガン川下流域の生物多様性保全のための住民参加型村おこしプロジェクトと環境教育の実践	酪農学園大学では、2006年から学生の海外実習として、マレーシアボルネオ島サバ州のバトゥプティ村において、生物多様性保全のための植林、野生動物の調査、ホームスティによる村民・子供達との交流を行ってきました。ボルネオ島はオランウータンやボルネオゾウが生息する世界で最も生物多様性の高い地域の一つですが、近年、森林伐採や油ヤシのプランテーションの拡大により、その生息地が失われつつあります。また、水質汚濁や貧富差の拡大など、大きな社会環境問題を抱えている地域でもあります。このため2012年から、国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業として、酪農学園大学、旭川市旭山動物園、（一社）コンサベーション・インターナショナル・ジャパン、（特非）EnVision環境保全事務所、ESRIジャパン株式会社が連携して現地の住民団体KOPEL、サバ州政府、サバ大学などと協働して、生物多様性保全と持続可能な生計の確立を目的としたプロジェクトを展開しています。	

表彰名	企業・事業者名	活動名称	紹介文	写真指定
審査委員長賞	一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会（エコッツェリア協会）	ゲンジボタルの累代飼育へのチャレンジを通じた都市緑地の新たな活用方法の提案	ゲンジボタル飼育実践を通じて、羽化時には、防犯や安全に配慮しながら周辺のサインを消灯するなど、都心緑地管理といきものの営みの共生を考える好機となりました。また、子供たちの環境教育や、周辺住民とのつながりを深める場づくりを、啓発的発信と、コミュニティを育み共有価値を生み出す都市緑地の新たな活用方法として提案しています。実践フィールドである「ほたるのせせらぎ」は、2012年竣工の大手町フィナンシャルシティ・サウスタワーにおいて、都市再生特区を活用した地域貢献施設「エコミュージアム」の一角にあります。管理を受託する三菱地所プロパティマネジメントおよび小岩井農牧、ゲンジボタル飼育を指導頂いたほたる工学研究所、大丸有地区の環境活動を担うまちづくり団体であるエコッツェリア協会が協働で取り組んでいます。今後も、皇居を中心としたエコロジカルネットワークの顕在化や拡充にむけて、協働の輪を広げていきたいと考えています。	
審査委員特別賞	鹿島建設株式会社 大日本プラスチックス株式会社	自然分解ネットを用いた環境にやさしいサンゴ礁復活プロジェクト	沖縄県慶良間諸島における新技術導入によるサンゴ礁再生プロジェクト。2014年3月5日に国立公園として誕生した慶良間諸島のサンゴ礁域は、多様な生態系と海中景観を有する。しかしながら、サンゴ礁はここ十数年の間、オニヒトデの大量発生や台風など自然の脅威により衰退しつつある。 本活動は、慶良間諸島の島々に囲まれ、観光資源として活用されている静穏海域のサンゴ礁の保全・再生を目的に、地元のダイバーと企業の連携により実施。この活動で適用しているサンゴ再生技術は、従来のサンゴの植付けに替わる新技術を採用。自然分解性の人工基盤「コーラルネット」を海底に敷くだけで、サンゴの再生を促すシンプルで環境にも優しい手法。サンゴが成長した後は基盤が自然分解することが特長であり、地元ダイバーでも手軽に扱える。 本年6月、コーラルネットで再生したサンゴが初めて産卵するなど、サンゴ礁とそこに棲む生き物たちにも明るい未来が見えた。	
審査委員特別賞	味の素株式会社	太平洋沿岸カツオ標識放流共同調査と一連の協働・普及啓発活動	鰹節やさしみなどで古くから日本人に親しまれるカツオですが、回遊ルートなど、その生態についてはまだよくわかっていません。味の素（株）は主力製品「ほんだし®」の原料でもあるカツオがなくなってしまわないように、カツオのことをより深く知るために2009年度より「太平洋沿岸カツオ標識放流共同調査」を、（独）水産総合研究センター国際水産資源研究所との協働事業として行っています。2009年度～2014年度で合計約１万尾の標識放流を実施し、黒潮源流海域で初となる長期間の遊泳行動の詳細データの把握に成功しました。この成果は、学術、国内水産行政、国内・国際漁業管理の面において重要であり、各種関連学会や水産関係者会議、また中西部太平洋資源管理機関に報告しました。さらに、水産資源の保全と持続的な利用を啓発するため、各種のイベントや講演、子どもたち向けの授業などを通じて取り組みの紹介を進めています。	
審査委員特別賞	福井県若狭町「鳥浜漁業協同組合」	国名勝「気比の松原」のアカマツの廃材を三方湖「柴漬け漁」で再利用	日本三大松原である「気比の松原」、ここは国の名勝地などに指定されています。しかし、近年は、樹林の高密度化、台風や積雪による倒木・幹折などが発生し、松の健全な成長が損なわれています。 この松林は、市民団体や森林管理署が中心となり管理保全を行なっておりますが、ここで伐採されたアカマツの枝葉を、焼却処分するのではなく、鳥浜漁業協同組合が譲り受け、伝統漁法「柴漬け漁」に有効活用するという取り組みです。 「柴漬け漁」は、枝葉を湖底に沈め、日陰やすき間を好むテナガエビがもぐり込んだ頃合いに引き上げ捕まえる漁法で、アカマツは枝と枝のすき間がほどよく、この漁に最適とされています。 これまでアカマツ材が不足し、供給が不安定でしたが、気比の松原の間伐材に切り替えることにより、安定的な供給が可能となり、伝統漁法の着実な継承へと結びついています。	
ESDの10年特別賞	株式会社 文化放送開発センター	全国高校生ESDシンポジウム	全国の高校生は、大変に熱心に環境活動を実践しています。 半面、国際的な環境状況の理解不足、持続可能な開発の理論の理解不足なども見受けられます。 そこで、熱心に環境活動をしている高校生だからこそ、将来のために、ESDの理論を伝える必要が重要と考え、「全国高校生ESDシンポジウム」を開催しました。 シンポジウムは、ESDユネスコ世界会議の開催を周知する目的を兼ねて、仙台、東京、名古屋、岡山の4地区で開催し、およそ200人の高校生が参加。 ESD基調講演、高校生ESD活動発表などに加え、「高校生ESD宣言」を作成し、出席した高校生らは高い評価をいただきました。 また、シンポジウム会場に出席できない高校生のために「高校生ESD情報誌」を発行し、全国の5,000高校に配布しました。	